

放射線環境学 溝口先生 レポート課題

今回、放射線環境学の授業で、土壌物理学的な視点からの農地除染について学び、また、農業再生についても学んだ。そして、授業後、ホームページにアクセスし講義資料にも目を通した。溝口先生は本格的に福島県の再生という目標に向かって活動しておられるということがわかり、感銘を受けました。

それでは今回のレポート課題「あなた自身ができそうな被災地の農業再生について」に関して述べていきたい。

まず、ここで述べられている「あなた」に関してだが、これは僕自身、特に現在の僕自身、と解釈した。つまり、東京で大学生活を営む大学生ということだ。学業やサークル活動に忙しい大学生でもできる被災地の農業再生とは何だろうか。私はまず、もっとも簡単な活動として、農産物の購入が挙げられると思う。福島県では、原発事故後に放射性物質の基準値が大幅に上げられ、検査がとてつもなく厳しくなり、とても多くの農産物が生産停止、または出荷停止にされたが、その後は放射線物質の値は減少していつているものも多く、再び出荷が許された農産物も多い。しかしその農産物は福島産だからという理由で避けられることもあるであろう。そのような農産物を積極的に購入することによって、その農家にお金が入り、農作物の生産をさらに増やし、放射線物質の除去に更に多くのお金を使うことができ、福島の農業の活性化につながるであろう。放射線物質が怖くないのかと疑問の声が上がるかもしれないが、僕は前回か前の放射線環境学の講義で、食品に含まれる放射線物質を摂取したところでほんの微量しか病気になる確率は上がらないうえ、基準値はとてつもなく厳しいことを学習したので、その基準値を突破した食品はもう他の産地のものと全く変わらないと判断し迷わず購入するであろう。

次に、できそうなこととして、放射線とその影響について、正しい知識を人々に伝えることが挙げられる。原発事故後、テレビを中心とするメディアが放射線物質とその危険性に関してとても多く報道して、その様子は扇動的ともいえるものであったため、人々の中には身近なものでない放射線物質に対して必要以上に危険視している人が多いと思われる。そのような人々に、放射線環境学の講義で学んだ、放射線物質に関しての正しい知識と、基準値を突破した食品の安全性を、普段の会話、インターネットなどを通して伝えることができれば、そのような人々も福島産の農産物の購入に至らせることができ、先ほど述べた自分一人の場合よりも非常に大きく、福島の農業再生に貢献することができるであろう。

以上が僕が思いつく福島の農業再生の方法だ。とても身近で単純な、小さなことであるが、このような小さなことが積み重なって農業は再生されるものだと思う。